

1 重要な会計方針

- (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法
- ① 有形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
ア 昭和59年度以前に取得したもの……………再調達原価
イ 昭和60年度以後に取得したもの
取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得原価が不明なもの……………再調達原価
- ② 無形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得原価が不明なもの……………再調達原価
- (2) 有形固定資産等の減価償却の方法
- ① 有形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
建物 13年～50年
工作物 10年～45年
物品 2年～17年
- ② 無形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法
ソフトウェア 5年
- ③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産(リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法
- (3) 引当金の計上基準及び算定方法
- ① 退職手当引当金
(A)－(B)による
(A) 当組合の退職手当債務
(B) = I－II＋III
I 秋田県市町村総合事務組合への加入時以降の負担金の累計額
II 既に職員に対し退職手当として支給された額の総額
III 秋田県市町村総合組合における積立金額の運用益のうち、当組合へ按分される額
- ② 賞与等引当金
翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。
- (4) リース取引の処理方法
- ① ファイナンス・リース取引
ア 所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)………通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。
イ ア以外のファイナンス・リース取引
………通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。
- ② オペレーティング・リース取引
………通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。
- (5) 資金収支計算書における資金の範囲
現金(手許現金及び要求払預金)及び現金同等物

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(6) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価格が50万円(美術品は300万円)以上の場合に資産として計上しています。

ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。

2 重要な会計方針の変更等

無し

3 重要な後発事象

無し

4 偶発債務

(1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況

他の団体の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っています。

単位:円

団体名	確定債務額	履行すべき額が確定していない 損失補償債務等		総額
		損失補償等引当金 計上額	貸借対照表 未計上額	
社会福祉法人水交会	153,955,000	0	0	153,955,000
計	153,955,000	0	0	153,955,000

5 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

① 一般会計等財務書類の対象範囲は次のとおりです。
一般会計

② 地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

③ 繰越事業に係る将来の支出予定額

繰越明許費(地方自治法第213条) 41,105,000円

継続費の通次繰越額(同法施行令第145条第1項) 2,295,576,000円

(2) 貸借対照表に係る事項

① 売却可能資産の範囲及び内訳は、次のとおりです。

ア 範囲

平成29年度予算において、財産収入として措置されている公共資産

イ 内訳

該当なし

② 減価償却累計額

事業用資産/建物: 1,136,925,131円

事業用資産/工作物: 9,932,410円

物品: 1,441,686,708円

③ 地方自治法第234条の3に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務金額

27,760,343円

(3) 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分(不足分)の内容

① 固定資産等形成分

固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しています。

② 余剰分(不足分)

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

(4) 資金収支計算書に係る事項

① 基礎的財政収支

68,681,201円

② 既存の決算情報との関連性

単位:円

	収入(歳入)	支出(歳出)
歳入歳出決算書	2,948,879,386	2,950,886,700
財務書類の対象となる会計の範囲の相違に伴う差額	0	0
資金収支計算書	2,948,879,386	2,950,886,700

歳入歳出決算書の歳入は、繰越金22,857,738円を除く

③ 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

資金収支計算書 業務活動収支	100,424,201 円
投資活動収入のその他の収入	365,825,084 円
財務活動支出のその他の支出	▲ 10,551,693 円
未収債権額の増加(減少)	41,105,000 円
未払債務額の増加(減少)	12,402,000 円
その他固定負債の増加(減少)	8,903,039 円
その他流動負債の増加(減少)	1,648,654 円
減価償却費	▲ 286,224,870 円
賞与等引当金繰入額(増減額)	▲ 5,287,681 円
退職手当引当金繰入額(増減額)	343,907,262 円
資産除売却益(損)	▲ 3 円
純資産変動計算書の本年度差額	572,150,993 円

④ 重要な非資金取引

重要な非資金取引は以下のとおりです。

無償取得 大曲保健センター 117,170,000円